

茨城県立中央病院 外科研修を終えて

堀 秀有

外科専攻医3年目の堀秀有と申します。杏林大学医学部付属病院 呼吸器・甲状腺外科に所属しており、外科専門プログラムの一環として当院の外科で1年間研修をさせて頂きました。私は、これまで2年間の研修は呼吸器外科を主に習練しておりました。消化器外科・血管外科は研修医の期間にローテーションしていましたが、さらに集中的な習練をさせて頂きたく、当院での外科研修を志望いたしました。

1年間研修させて頂き、非常に多くの症例を経験させていただきました。ヘルニアなどの良性疾患から胃癌や大腸癌等の悪性腫瘍の手術、AAAなどの血管外科手術を含め年間約170件の手術に携わらせていただきました。また、その内約90件の手術で上級医の先生方のご指導のもと執刀の機会を頂きました。これほど多くの症例を経験できたことは私の外科人生にとって非常に貴重な経験であったと思います。

また、外来診療にも携わらせていただき、初診から術前計画、周術期管理、退院後フォローアップまで一貫して診療にあたることができ手術手技だけでなく、疾患全体の知識や診療について学ぶことができました。さらには、救急外来などで外傷症例や緊急手術症例なども経験でき非常に勉強になりました。

外科系を目指す先生方、是非当院での外科専門研修をご検討ください。当院で経験を積むことで必ず外科医として成長することができます。

最後になりましたが、この1年間関わらせていただいた皆様に感謝申し上げます。

茨城県立中央病院での 1 年間の消化器外科研修を通して

伊佐間 樹生

外科専攻医 2 年目の伊佐間 樹生と申します。私は杏林大学付属病院 呼吸器・甲状腺外科に所属しており、今回外科専門研修プログラムの一環として当院の外科で 1 年間研修させていただくこととなりました。茨城という地に縁があったわけではありませんが、なぜ当院での研修を選択したのかというと、一昨年に当院で研修させていただいていた先生の研修報告を伺い、上部・下部・肝胆膵・血管外科様々な分野で多くの手術を経験されておりました。元々消化器外科にも興味があった私にとって、消化器外科の手術を多く経験できる当院での研修はとても魅力的であると感じ、当院での研修を選択致しました。

1 年間で上部・下部・肝胆膵・血管すべての分野を経験させていただき、とても有意義な 1 年であったと思っております。各分野で高度な手術に入らせていただいたり、執刀の機会も多くいただくことができました。また術後管理も任せていただき、時に大変であったこともありましたが多くを学ぶことができました。

また、外来も経験させていただき、初診外来にいらっしゃった方の検査を行い、手術を担当し、術後外来まで担当するという専攻医としてなかなか経験のできないことを 1 年間経験させていただくことができました。その中で、自分が今後改善していかなければならない部分も実感することができ、手術経験以外の面でも学ぶことが多かった 1 年でした。

さらに当院では救急外来を担当する機会もあり、大学病院では救急診療科が行っていたファーストタッチの部分も経験することができ、消化器外科だけではなくその他全般的に多くの分野の疾患も学ぶことができました。このような場面で他科の先生方へご相談させていただくこともあり、外科だけでなく他科の先生方にも科の垣根を越えて指導していただき、そういった点でも勉強になった 1 年でした。

長くはなりませんが、この 1 年間の研修は外科医として非常に有意義なものになったと思っております。当院での外科研修は手術手技もちろんですが、外来や救急外来も含め多くの経験をすることができるので、是非当院での研修を検討していただければと思います。

最後になりますが、丁寧に指導していただいた上級医の先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

茨城県立中央病院 外科研修を終えて

渡部こずえ

外科専攻医3年目の渡部こずえと申します。杏林大学医学部附属病院 呼吸器・甲状腺外科に所属しており、外科専門プログラムの一環として当院の外科で1年間研修をさせて頂きました。消化器外科の症例に関しては大学病院や都内の病院をローテーションすることも可能でしたが、ただ手術に参加するだけではなく、より多くのことを学びたいと思い、当院での外科研修を志望致しました。

1年間研修をした結果、当院の外科で研修をして非常に良かったと思っております。都内の病院と比較すると医師の人数は少ないかもしれませんが、その分レジデントが経験できる手術数は多く、執刀の機会も多く頂きました。当院の特徴としては地方の病院であるにも関わらず、多くの悪性疾患の手術、特に肝胆膵外科の悪性疾患の手術を多く経験できることは貴重なことだと思います。また、初診外来から精査・手術・術後まですべてを担当するため、手術内容はもちろんですが、疾患全体の知識を学ぶことができました。

また、上級医の先生方はどなたも非常に教育熱心であり、私が呼吸器外科の所属であることは全く関係なく、非常に丁寧にご指導くださいました。手術の予習や振り返りなどを一緒に行って頂き、その度に解剖や手術手技の理解が深まり、改めて外科の楽しさを実感しました。また、当院の外科は血管外科の手術も経験できることは私にとって非常に貴重な経験でした。肺や消化管などいずれの臓器でも血管処理は必要となるため、血管剥離等の技術を学ぶことができ、非常に勉強になりました。

経歴や所属している医局、将来目指す外科分野は関係ありません。手術を多く経験し、知識・技術を身に付けたい先生は当院の外科研修で必ず多くの経験を積み、成長することができると思いますので、是非、外科専門研修先として当院を検討してもらえたらと思います。

寄稿 茨城県立中央病院での貴重な1年を通して

外科専攻医 水崎 徹太

まずは簡単に私の略歴から紹介したい。群馬大学を卒業し、医師を目指した初心を思い出し東北の地を初期研修に選んだ。小児外科医になりたいという気持ちは忘れなかったものの、初期研修病院は外科志望の医師も少なく、初期研修医の間に助手をした手術のNCD登録がされていなかったのだ。そのまま筑波大学の小児外科医局に所属した。外科専攻医1年目、2年目と多くの小児外科疾患は経験できていたものの、外科専門医試験を受験するための必要要件である、乳腺、呼吸器、心臓・大血管、末梢血管の手術症例は皆無の状態であった。そんななか、外科専攻医5年目として一般外科を学ぶために茨城県立中央病院での1年間を経験させていただいた。

茨城県立中央病院はICU、HCUおよびCCUを有し、500床の病床数がある。茨城県地域がんセンターとしての役割も持ち、多くのがん患者が来院されるため外科も上部消化管、下部消化管2チーム、肝胆膵、血管の計5チームで年間700件程度の手術をこなしている。症例の足りなかった自分にとってはうってつけの場所であった。

外科手技の基礎はある程度習得していたものの成人外科については一度も術者をしたことがなく、成人外科手術の初歩である鼠径ヘルニア手術でさえまともな経験はなかった。それでも多くの上級医のご指導のおかげでヘルニア手術はLichtenstein法、Direct Kugel法、TAPP法と気付いたら30症例近く術者をさせていただいた。その上、上部消化管では幽門側胃切除術および腹腔鏡下胃切除術の術者を、結腸の手術は腹腔鏡・開腹含め20症例ほどの手術をさせていただいた。結腸の手術に関しては、手術前に手術書の紹介やインターネット閲覧可能な手術動画などを紹介していただき、丁寧なご指導の下に憂いなく手術を完遂することができた。

茨城中央病院では丁寧なご指導をしていただける上級医の元、勤勉で真面目な同期、患者に優しく明るい看護師、丁寧かつ早急に対応していただける医療スタッフに囲まれ、大変有意義な研修をさせていただいた。あらためて、この1年間関わらせていただいた皆様に感謝申し上げたい。そして、手術ができなくてうずうずしている外科専攻医の先生にとって茨城県立中央病院はこれ以上ない環境の整った病院なので、茨城県立中央病院で研鑽を積んで立派な外科医になってほしい。